

いいかお

引佐南部中学校区だより
學区 平成 29 年 10 月 10 日



「いいかお」は、
いなさんぶちゅうの「い」
いいのやしょうの「い」
かなさししょうの「か」
おくやましょうの「お」

引佐南部中校長
井伊谷小校長
金指小校長
奥山小校長

安藤 篤喜
大澤 重義
水谷 良治
池端 利恭

日頃から引佐南部中学校区の幼稚園、小学校、中学校の教育活動につきまして、格別の御理解と御支援をいただき、深く感謝申し上げます。

引佐南部中学校区では、幼稚園と小学校、中学校の12年間の学びと育ちをつなぎ、連続性と継続性のある指導を行うため、協同して一貫した教育に取り組んでいます。

中学校区幼・小・中合同研修会が開催されました

毎年、中学校区内の幼稚園、小学校、中学校の教員が集まり「引佐南部中学校区幼・小・中の連携を進める会」を行っています。本年度は8月7日（月）に開催しました。

『共通して目指す子供像』である「人とのかかわりを大切にする子」「学びを楽しむ子」「基本的な生活習慣を大切にする子」の実現を図るために、「生徒指導部」、「特別活動部」、「研修部」を柱として実践に取り組んでいます。

全体会では、井伊谷小学校の実践が発表されました。研修部からは「自ら学び、伝え合う学習」を目指した算数科授業の実践、生徒指導部からは、「井伊谷小の3つの宝」「井伊谷小の約束」の取り組みの様子、特別活動部からは、1年間を3つのステージに分けて取り組んだ成果の報告がありました。

また、各学校の研修・特活・生徒指導の主任で構成する各部会からは、昨年度の成果と本年度の実施内容について報告されました。「学習のルール」「話し合い活動の進め方」「生活の決まり」など、今後も同一歩調で取り組んで行くことを確認しました。



【全体会の様子】



【グループ研修の様子】

全体会の後は、グループ研修を行いました。幼小中それぞれの教員が入るようグループを編成し、子供たちの様子について意見を交換し研修を深めました。

参加者の日々の実践から得た貴重な助言や幼小中それぞれの立場から捉えた多角的な意見の交換、諸課題から見えてくる連携の重要性を再確認する等、合同研修会ならではの充実した研修とすることができました。

今回の話し合いが、それぞれの学校・園における教育活動に生かすことができるよう、2学期から努めて参ります。

引佐北部・引佐南部中学校区PTA合同研修会が開催されました

引佐北部・南部中学校区PTAでは、共に子供たちの健全な成長を願い、子育てにおける課題を共有し研修を深めていこうと、青少年健全育成会と合同で研修会を開催しています。

演題『心根を育てる』

講師 浜松市花みどり振興財団（フラワーパーク） 理事長 塚本 こなみ 氏



【講演する塚本氏】



本年度は、8月26日（土）に、引佐多目的研修センターにおいて、講師に塚本こなみ氏をお招きし開催しました。PTA、健全育成会、民生児童委員各関係者総勢138名の参加をいただきました。

講師の塚本氏からは、終始穏やかな口調で、子育てに役立つ大切なお話をしていただきました。

1つ目は「自分の木を持つ」ということです。

NHKの「ようこそ先輩」に出演したときのこと。当初、木への関わりのなかった子供たちは、当然のように木と触れ合っても「木には何も感じることはなかった。」と感想を書いてきた。しかし、毎日自分が決めた木の近くに居たり触れたりすることで、子供と木との対話が生まれ、いつしか人には言えない悩みを木に語りかけるまでになった。自然との触れ合いは、人の心を開くことができる。

2つ目は「人の心を整える・育てる」です。

従業員に心に傷を負った方がいた。果たして自分にもできることがあるのかと見えない将来に不安を感じていた。笑顔もなく、声も出ないつらい状態であった。しかし、自分が手掛けた植物に対する来場者からの温かい感謝の言葉や、日々の植物との関わりから、いつしか心を整えられ、自己実現し家庭や社会で活躍することができるまでに変わった。

師の教えである「枝葉の症状、全て根にあり」の言葉を大切にしてきた。「根本」「根幹」「根底」など生きていく上で大切なことには、「根」という字が付く。人間の根は、心にある。植物にはその心を整え・育てる力がある。

3つ目は、「責任」でした。

フラワーパークは1年を通して入場料が一定ではなく、季節により変動する。3～6月は、600円から1,000円。その後、7月～9月は無料となり、10月から2月はお買い物券付きの500円になる。これは、季節により咲く花の種類が変化することから、花の美しさ（商品）に対する適正な価格を考えた結果であり、提供する側の責任である。また、その園内の全てのコーナーに担当者の名前を表示し、明示する。それは、作り手の責任であることを明らかにするためである。

今後も、植物の再生復元力を生かし、人々の心の傷を癒やす適応指導のできる場所として、広く社会貢献していくとのことでした。優しく、それこそ植物のように包み込む豊かな包容力の感じられる塚本氏からは、内に秘めた強く、熱い志も伝わってきました。貴重なお話をありがとうございました。



【多くの皆様に御参加いただきました】